



事 務 連 絡  
平成 25 年 3 月 29 日

各都道府県衛生主管部（局）薬務主管課 御中

厚生労働省医薬食品局審査管理課

第十六改正日本薬局方第一追補正誤表の送付について

第十六改正日本薬局方第一追補（平成 24 年厚生労働省告示第 519 号）につきまして、一部に誤植等がありましたので別紙のとおり正誤表を送付いたします。

## 第十六改正日本薬局方第一追補正誤表

## 1. まえがき・目次

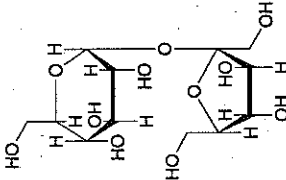
該当箇所	頁	行	正	誤
目次	(3)	↓ 1	第十六改正日本薬局方第一追補	第十六改正第一追補日本薬局方
目次	(4) 左	↓ 8	セフジニル	セフニジル
目次	(6)	↓ 1	第十六改正日本薬局方第一追補	第十六改正第一追補日本薬局方

## 2. 一般試験法

該当箇所	頁	行	正	誤
9.41 試薬・試液	20 左	↓ 26	$C_{12}H_{16}O_7$	$C_{12}H_{16}O_7O$
9.41 試薬・試液	20 左	↑ 5	標準溶液(1) 10 $\mu$ L ずつ	標準溶液 10 $\mu$ L ずつ
9.41 試薬・試液	21 右	↓ 28	$C_2N_{42}O_4$	$C_2O_4N_{42}$
9.41 試薬・試液	28 左	↑ 4	果糖、薄層クロマトグラフィ用 . . . . カルボプラチン $C_6H_{12}N_2O_4Pt$ [医薬品各条] 還元緩衝液、ナルトグラスタム試料用 . . . .	果糖、薄層クロマトグラフィ用 . . . . 還元緩衝液、ナルトグラスタム試料用 . . . .
9.41 試薬・試液	33 右	↑ 9	エポエチンアルファ標準品	エポエチンアルファ標準物質
9.42 クロマトグラフィ 用担体/充填剤	34 右	↑ 2	多孔性スチレンージビニルベンゼン共重合体(平均孔径 0.3~0.4 $\mu$ m, 50 $m^2/g$ 以下), ガスクロマトグラフィ用 を見よ.	多孔性スチレンージビニルベンゼン共重合体(平均孔径 0.3~0.4 $\mu$ m, 50 $m^2/g$ 以下) を見よ.

3. 医薬品各条

該当箇所	頁	行	正	誤
イオヘキソール	44 右	↑ 2	還流冷却器を付けて30分間煮沸し， 本品を乾燥し，一硝酸イソソルビド(C <sub>6</sub> H <sub>9</sub> NO <sub>6</sub> ) 約 0.2 g に対応する量を精密に量り， 薄層クロマトグラフィー(2.03)により	還流冷却器を付けて水浴上で30分間加熱し， 本品を乾燥し，一硝酸イソソルビド(C <sub>6</sub> H <sub>9</sub> NO <sub>6</sub> ) 0.2 g に対応する量を精密に量り， 薄層クロマトグラフィーに(2.03)より
70%一硝酸イソソルビド 乳糖末	46 右	↑ 24	(1) 溶状 本品 1.0 g を熱湯 10 mL に溶かし， 放冷し，観察するとき，液は無色又はほとんど無 色澄明で，その色は次の比較液より濃くない。ま た，この液につき，水を対照とし，紫外可視吸光 度測定法(2.24)により試験を行うとき，波長 400 nm における吸光度は 0.04 以下である。 比較液：塩化コバルト(II)の色の比較原液 2.5 mL，塩化鉄(III)の色の比較原液 6.0 mL 及び硫 酸銅(II)の色の比較原液 1.0 mL をとり，薄めた 希塩酸(1→10)を加えて 1000 mL とする。	(1) 溶状 本品 1.0 g を熱湯 10 mL に溶かし， 放冷し，観察するとき，液は無色又はほとんど無 色澄明で，その色は次の比較液より濃くない。 比較液：塩化コバルト(II)の色の比較原液 2.5 mL，塩化鉄(III)の色の比較原液 6.0 mL 及び硫 酸銅(II)の色の比較原液 1.0 mL をとり，薄め た希塩酸(1→10)を加えて 1000 mL とする。ま た，この液につき，水を対照とし，紫外可視 吸光度測定法(2.24)により試験を行うとき， 波長 400 nm における吸光度は 0.04 以下であ る。
L-シスチン	78 右	↑ 4		
無水乳糖	109 右	↓ 8		

精製白糖	110 左	↑ 16	<p>Sucrose</p>  <p><math>C_{12}H_{22}O_{11} : 342.30</math>  <math>\beta</math>-D-Fructofuranosyl <math>\alpha</math>-D-glucopyranoside  [57-50-1]</p> <p>本医薬品各条は、三薬局方での調和合意・・・</p>	<p>Sucrose</p> <p>本医薬品各条は、三薬局方での調和合意・・・</p>
ピロカルピン塩酸塩錠	123 右	↓ 20	リン酸二水素カリウム試液1000 mLにリン酸を加えて	リン酸二水素カリウム試液に1000 mLリン酸を加えて
フィルグラスチム (遺伝子組換え)	125 右	↓ 22	本品の1 mL中に	本品の1 mL中に
プロチゾラム	131 左	↓ 19	混合比を次のように	混合比を次のように
モルヒネ硫酸塩水和物	137 左	↑ 5, 7	標準溶液(1)から得たスポット 標準溶液(2)から得たスポット	標準溶液(1)のスポット 標準溶液(2)のスポット
ラフチジン錠	139 左	↑ 15	液体クロマトグラフィー	液体クロマトグラフィー
ラフチジン錠	139 左	↑ 4	液体クロマトグラフィー用オクタデシルシリル化シリカゲル	液体クロマトグラフィー用オクタデシルシリル化シリカゲル

4. 医薬品各条 (生薬等)

該当箇所	頁	行	正	誤
シヨウキョウウ未	163 左	↓ 10	乾燥減量 (5.0) を測定しておく	乾燥減量 (2.4) を測定しておく
バクガ	171 右	↓ 22	GERMINATUS	GERMINATUS

5. 参考情報

該当箇所	頁	行	正	誤
核磁気共鳴(NMR)法を利用した定量技術と日本薬局方試薬への応用	213 右	↓ 7	$P_a = \frac{S_a N_a M_a m_a}{S_b N_b M_b m_b} P_b$	$P_a = \frac{S_a N_a M_a m_a}{S_b N_b M_b m_b} P_b$
第十六改正日本薬局方における国際調和	221 左	↓ 20	調和年月：2012年6月(Corr.2)	調和年月：2008年11月(Corr.1)
第十六改正日本薬局方における国際調和	223	↑ 29	調和年月：2010年6月 (Rev.3)	調和年月：2008年11月 (Rev.2)
第十六改正日本薬局方における国際調和	225 左	↓ 29	調和年月：2012年6月(Rev.1, Corr.1)	調和年月：2010年11月(Rev.1)

6. 日本名索引

該当箇所	頁	行	正	誤
カ	245 右	↑ 4	カルボプラチン.....28, 64	カルボプラチン.....64